巻頭特集 映画「クハナ!」製作秘話

あふれる思いが街を動かす

桑名市を舞台に、秦建日子監督が手がけた地方創生ムービー「クハナ!」。子どもたちの勇気と情熱が、街の大人たちを動かしていく笑いと涙と音楽にあふれたハートウォーミングな物語だ。その裏側には、寺町商店街から生まれたもうひとつの物語があった。

「桑名を盛り上げたい」寺町から生まれた夢

寺町商店街の中ほどにある小料理屋、「五大茶屋」。還暦を機に念願の店を開いたという林恵美子さんが厨房に立つ。オープンから2年が経ち、食事処として、多くの人に知られる店になった。

「桑名を盛り上げる、面白いことをやりたいね」。ある日、五大茶屋で会議をしていた20代から40代のグループが、そんな話をしていた。メンバーは元公務員、ロボット設計士、庭師など、職業はさまざま。傍で聞いていた林さんは興味を引かれ、いつしか輪に加わるようになった。桑名の名物を考えたり、一般人が石取祭に参加できる仕組みを模索したりと、あれこれ試しては企画倒れになったが、考える時間が楽しかった。

「クハナ!」映画部 部長
林恵美子さん

ある日、メンバーの福田未紀さんから驚くべき情報が入った。結婚を機に桑名市へ移り住んだ福田さん。ブログで市の魅力を紹介したところ、記事を読んだ知人の秦建日子さんが「桑名で映画を撮るのも面白い」といい、話し合ったという。秦さんといえば、小説家であり、演出家や脚本家として、多くのテレビドラマを手がけてきた人気クリエーターだ。話は桑名市ブランド推進課を通してとんとん拍子に進んだ。「予算もないのに、そんな人が来てくれるんだろうか」。そう感じていたメンバーの不安をよそに、秦監督は桑名市へ足を運んだ。

「クハナ!」監督・脚本
秦建日子さん

秦監督と映画部の思いが地元を動かしていく

映画をつくりたいと思い至ったものの、メンバーはみんな素人。しかし、郷土愛だけはどこにも負けないというグループからの依頼に、秦監督は立ち上がった。

「話を聞いた瞬間に私のセンサーがビビビッと反応しました。自分がずっと待っていたのは、こういう仕事だったのではないか」。製作資金は「あまりない」のではなく、その時点で0円。これから集める必要がある。

いくつもの街おこしムービーを見てきた秦さんは、地元の人しか見ない映画をつくる気はなかった。やるからには、桑名市に縁もゆかりもない人が見ても楽しめる映画をつくりたい。映画を観た後、劇中に登場した場所へ行きたくなる作品であるべきだと考えた。構想がまとまっていくなかで、脚本家としてではなく、監督としてメガホンをとろうと決心。資金集めには、映画の肝となる脚本が必要だったが、驚くべき速さでストーリーを仕立てた。タイトルは「クハナ!」。自ら市役所や企業に出向き、資金の確保に奔走すると同時に、商店街では五大茶屋を拠点に「クハナ!映画部」が立ち上がる。

1_撮影期間は午前4時台から五大茶屋に集まり、全員分の朝食を用意した 2_温かい言葉に涙ぐむ製作スタッフ 3_感謝を綴ったメッセージカードが添えられた 4_クランクアップを喜びあう製作陣と映画部メンバー。全員の思いがひとつになった

林さんを部長に80人のメンバーが集まり、資金を求めて店舗や企業を回った。

「最初は協力してくださる方も少なく、小さなお店から1万円をいただいては、みんなで喜びました」と林さん。1軒1軒を回るなかで、断られることも少なくなかった。心が折れそうな時に寄付を受け、涙することもあった。

やがてスタートから8カ月が過ぎ、クランクインを迎えるための最低限の資金が集まった。「足りない分はなんとかする」。秦監督は本作を小説化し、売上を製作費に充てて撮影に臨んだ。

桑名の魅力がつまった映画が9月3日にいよいよ公開

「クハナ!」のタイトルは9つの花を意味する。9人のガールズバンドのキャスト選考では、東京、名古屋、桑名でオーディションが開催され、2000人を超える参加者が集まった。主演の松本来夢さんを除き、三重県と愛知県のメンバーで構成されている。

「東京でも良い子はたくさんいました。でも、作品に合う素朴な笑顔を求めて選考した結果、ほとんどが三重県の子になったのです」と秦監督。

選ばれたメンバーは「クハナキッズ」を演じるため、月に2~3回ジャズ演奏の練習をしに桑名市へ集まる。映画部メンバーの自宅を練習場に使い、秦監督の呼びかけに応じて本作の楽曲を担当する作編曲家・立石一海さんが指導を行う。半年間の練習を経て、3月16日のクランクインから2週間にわたり撮影に臨んだ。

ロケは早朝6時から始まるため、全スタッフの朝食は、映画部の女性メンバー15人が五大茶屋でつくる。健康のため毎日の献立を考え、心を込めた手作り弁当を用意した。資金を求めて訪問した先からも次々と協力を申し出る店が現れ、撮影現場には心温まる差し入れが増えていく。気づけば地元が一体となり、「クハナ!」を応援していた。

3月31日、迎えたクランクアップ。朝食を受け取ったスタッフの肩が、小刻みに震えている。「お疲れさまでした」、「一生の思い出になりました」、「本当にありがとう」。弁当の包装には、映画部メンバーから思い思いのメッセージが貼られていた。多くの人と一緒に奮闘した日々が蘇り、監督をはじめとした制作陣の目に涙がこみ上げたという。

「クハナ!」映画部メンバー

本作には多度町をはじめ、市内のさまざまなスポットが登場する。「製作費を出資いただいた方に恩返しを」と、秦監督がロケ地に盛り込んだ。風間トオルさんや多岐川裕美さんなど実力派俳優が登場するほか、市内から1200人を超えるエキストラが参加。三重県・鈴木英敬知事、桑名市・伊藤徳宇市長も登場する。文部科学省選定作品にも選ばれた。

秦監督の情熱と、桑名市民の温かな人情でつくった映画「クハナ!」は、9月3日から公開。映画には、多くの知っている人や覚えがある風景が登場する。それは、秦監督が知る桑名市の魅力だ。フィルムを通して見ることで、いままで気付かなかった発見があるだろう。

KUHANA!
JAZZ×kids

■information
クハナ!
2016年9月3日(土)
イオンシネマ
桑名・津・東員・名古屋茶屋ほか
東海地区先行公開

文/編集室 写真提供/「クハナ!」映画部、スターキャット・ケーブルネットワーク株式会社 デザイン/ABBEY ROAD